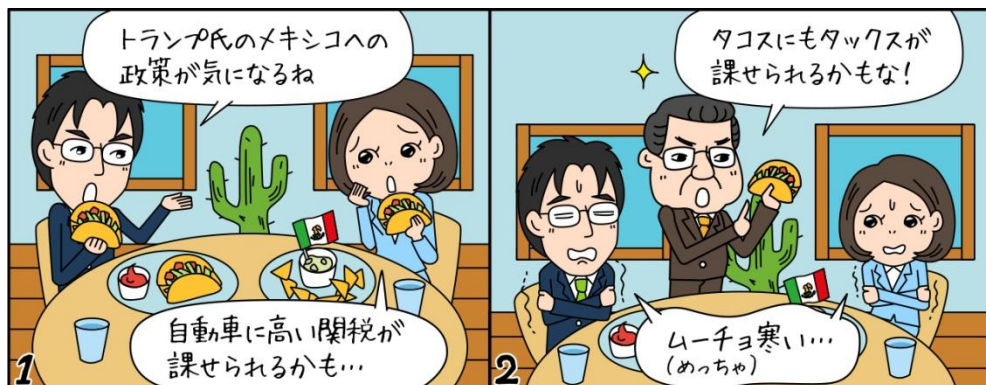


「新人目線」の用語解説

語句よみ

第165号



新人くん

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

今回のテーマ 米新政権誕生で注目されるメキシコへの影響

1月20日に就任を控えるトランプ次期米大統領は、メキシコとの国境に壁を作るといった強硬策をこれまで主張しており、メキシコ経済への影響が懸念されています。今回は、メキシコ経済の特徴と、米新政権が及ぼす影響について調べてみました。

1. メキシコ経済

メキシコは北アメリカ大陸の南部に位置しており、中南米ではブラジルに次ぐ経済大国です。巨大な消費市場である米国や成長が期待される南米と隣接する地理的優位性や、労働力となる若年者層の多い人口構成などを背景に、中長期的な経済成長が期待されています。

米国へ製品を輸出する際の輸送コストが低く抑えられることに加え、相対的に賃金水準が低く、安定していることも国際的な競争力につながっています。こうしたコスト面の強みなどを背景に、自動車メーカーなど、多くの海外企業がメキシコに進出しており、自動車の製造拠点としての地位を確立しています。

また、メキシコは、関税引き下げなどを通じて貿易障壁を取り除くFTA(自由貿易協定)を40カ国以上の国々と締結し、低関税などの優位性を背景に、世界各国との貿易を活発化させています。1994年に発足したNAFTA(北米自由貿易協定)では、米国・カナダとの3カ国による自由貿易圏の成立をめざし、相互に市場を開放、2008年には域内の関税が完全撤廃されました。これにより、域内の貿易が活発となり、メキシコの貿易量は大きく拡大しました。

ステップアップ

メキシコは金や銀などの鉱物資源に恵まれているほか、中南米では主要産油国でもあります。近年では、原油価格の低迷などを背景に、エネルギー分野の成長は鈍化したものの、民間への鉱区開放や国営石油公社の経営再建などの改革が進められており、今後の経済成長に寄与すると期待されます。



(次のページへ続きます)

特に、メキシコから米国への輸出が拡大し、2015年時点では、輸出の約8割を米国向けが占めています。そのため、メキシコ経済は米国の景気動向の影響を大きく受ける傾向がみられます。

2. トランプ新政権とメキシコ

経済的に米国と関係の深いメキシコは、トランプ氏の掲げる保護主義的な政策の影響を大きく受けると懸念されています。

同氏は貿易政策として、NAFTAの再交渉または離脱を表明しているほか、メキシコに移転した企業からの輸入品に35%の関税を課すといった強硬的な内容を主張してきました。

また、メキシコから米国への不法移民への対策として、不法移民の強制送還などの規制強化や、メキシコとの国境に壁を築くといった政策も掲げています。同氏は、壁建設の費用負担をメキシコ政府に求めており、応じない場合、メキシコの個人消費の下支え要因である在米メキシコ人移民からの送金を停止するとしています。

こうした政策が実現すれば、メキシコ経済にとって、大幅な下押し圧力になると懸念されており、足元ではメキシコの通貨ペソが売られる状況となっています。

ただし、米国からメキシコへの輸出も大きいことに加え、メキシコに拠点を持つ米国企業が多いことなどから、強硬な貿易政策は、かえって米国経済にも悪影響を及ぼすとみられるほか、不法移民対策についても、極端な政策を実施すると、米国の産業に人手不足をもたらすことから、見直される可能性があります。

短期的には米新政権の政策に対する先行き不透明感がメキシコ経済や通貨の重石になるとみられるものの、強硬な政策の実施が見送られれば、徐々に不透明感は払拭され、通貨ペソは持ち直すと考えられます。また、米新政権による減税や財政支出の拡大などの経済政策により、米国の景気回復が一段と進めば、メキシコもその恩恵を受けるとの見方もあり、メキシコ経済の先行きを見通す上では、米国政治・経済の動向に注目が集まると考えられます。

米国の政策は良くも悪くもメキシコ経済に大きく影響するみたいですね。メキシコへの影響を見極める上でも、トランプ新政権の動向には注目しておきたいところです。

ステップアップ

最近では、国内回帰を志向するトランプ氏の圧力を受け、米大手自動車メーカーが、メキシコでの新工場建設の計画を撤回しました。こうしたメキシコへの投資を控える動きが広がるのが懸念されており、足元のペソ安に拍車を掛ける状況となっています。



facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。